

# 熊手と提灯

正岡子規

青空文庫



本郷の金助町に何がしを訪うての帰り例の如く車をゆるゆると  
 歩ませて切通きりどおしの坂の上に出た。それは夜の九時頃で、初冬の  
 月が冴さえ渡つて居るから病人には寒く感ぜられる。坂を下りなが  
 ら向うを見ると遠くの屋根の上に真赤な塊かたまりが忽ち現れたのでちよ  
 つと驚いた。箒星ほうきぼしが三つ四つ一処に出たかと思うような形で  
 怪しげな色であつた。今宵こよいは地球と箒星とが衝突すると前からい  
 うて居たその夜であつたから箒星とも見えたのであろうが、善く  
 見れば鬼灯ほおずき提灯おびただが夥しくかたまつて高くさしあげられて居るの  
 だ。それが浅草かみなりもんの雷門かみなりもん辺であるかと思うほど遠くに見える。  
 今日には二の酉とりでしかも晴天であるから、昨年来雨に降られた償い

を今日一日に取りかえそうという大景気で、その景氣づけに高く吊つてある提灯だと分るとその赤い色が非常に愉快に見えて来た。

坂を下りて提灯が見えなくなると熊手持つて帰る人が頻りに目につくから、どんな奴が熊手なんか買うか試こころみに人相を鑑定してやろうと思つて居ると、向うから馬鹿に大きな熊手をさしあげて威張つて居る奴がやつて来た。職人であろうか、しかし善く分らぬ。

月が後から照して居るので顔ははつきり見えぬが何でも慾ばつて居るような人相だ。こんな奴にはきつと福は来ないよ。身分不相応な大熊手を買つて見た処で、いぎ鎌倉という時に宝船の中から鼠の糞は落ちようと金が湧わいて出る氣遣きづかいはなしさ、まさか大仏かんざしの簪にもならぬものを屑屋だつて心よくは買うまい。………や

がて次の熊手が来た。今度は二人乗のよぼよぼ車に窮屈そうに二人の婆さんが乗って居る。勿論田舎の婆さんでその中の一人が誠に小さい一尺ばかりの熊手を持って居る。もし前の熊手が一号という大ききならこの熊手は廿九号位であるであらう。その小さな奴を膝の上にも置かないでやはり上向けて大熊手持ったようにさしあげて居たのもおかしい。その無邪気な間の抜けた顔は慥かに無慾という事を現して居るので、こいつには大に福を与えてやりたかった。自分が福の神であつたら今宵この婆さんの内に往て、そつとその枕もとへ小判の山を積んで置いてやるよ、あしたの朝起きて婆さんがどんなに驚くであらう。しかし善く考えると福相という相ではない。むしろ貧相の方であつて、六十年来持ち来つた

つぎませの財布を孫娘の嫁入に譲つてやる方だ。して見ると福の神はこんな皺しわくちや婆さんを嫌うのであろうか。あるいは福の神はこの婆さんの内の門口まで行くのであるけれど、婆さんの方で、福なんかいらぬというて追り返すような人相とも見える。……

……次も二人乗の車だが今度は威勢が善い。乗つてる者は、三十余りか四十にも近い位の、かつぶくの善い、堅帽を被かぶつた男で、中位な熊手を持つて居る。大方かなりな商家の若旦那であらう。

四十近くでは若旦那でもない訳だが、それは六十に余る達者な親父があつて、その親父がまた慾ばりきつたごうつくばりのえら者で、なかなか六十になつても七十になつても隠居なんかしないので、立派な一人前の後つぎを持ちながらまだ容易に財産を引き渡

さぬ、それで仕方なしに今に若旦那で居るといふ人相をして居る、  
側そばに乗つて居るのは十二、三の少年でこれが末の弟に違いない。  
こいつにも余り福をやりたくないのであるが、しかし大鷲大明神  
なかなか慾ほばつて居るからこれくらいの熊手を買うてもろうた義  
理に少しは搔かき込んでやるかもしれない。………仲町を左へ  
曲つて雪見橋へ出ると出あいがしらに、三十四、五の、丸まるまげ鬚げに  
結むすうた、栗に目口鼻つけたような顔の、手頃の熊手を持った、不  
断だんぎ著きのままに下駄はいた、どこかの上かみさんが来た。くたびれた様  
も見えないで、下駄の齒をかつかつと鳴らしながら、さつさと帰  
つて行く。その人相を見るに、これは夫婦ぐらしで豆屋を始めて  
居て夫婦とも非常な稼かせぎ手ではあるが、上さんの方がかえつて愛あ

いきよう

嬌いが少いので、上さんはいつも豆の熬いり役で、亭主の方が紙袋に盛り役を勤めて居る。もつともこの亭主は上さんよりも年は二つ三つ若くて、上さんよりも奇麗で、上さんよりもお世辞が善い。それで夫婦中は非常に善く調和して居るから不思議だ。今その上さんが熊手持って忙しそうに帰って行くのは内に居る子供がとりいち酉の市のお土産でも待つて居るのかとも見えるがそうではない。この夫婦には子は一人もないのでこの上さんは大きな三毛猫を一匹飼うて子よりも大事にして居る。しかし猫には夕飯まで喰わして出て来たのだからそれを気に掛けるでもないが、何しろ夫婦ぐらして手の抜けぬ処を、例年の事だから今年もちよつとお参りをするというて出かけたのであるから、早く帰らねば内の商売が案

じられるのである。ほんとうに辛抱の強い、稼ぎに身を入れる善い上さんだ。これにこそ福を与えて善かろう。もしこの上さんに福をやらなければ福をやるべき人間は外にあるはずはない。この上さんが毎晩五錢ずつを貯金箱に入れる事にきめて居るのだが、せめてそれを十錢ずつにしてやりたいよ。するとその貯金がたまつて後には金持に出世する。しかし大驚の意見と僕の意見と往々衝突するから保証は出来ない。

三橋に出ると驚いた。両側の店は檐のきのある限り提灯を吊して居る。二階三階の内は二階三階の檐も皆長提灯を透間すきまなく掛けて居る。それでまだ物足らぬと見えて屋根の上から三橋の欄らんかん干へ綱を引いてそれに鬼灯ほおずき提灯を掛けて居るのもある。どうも奇麗だ。

何だか愉快でたまらん。車は「揚出し」の前を過ぎて進んで往た。「雁鍋」も「達磨汁粉」も家は提灯に隠れて居る。瓦斯燈ガスもあつて、電気燈もあつて、鉄道馬車の灯は赤と緑とがあつて、提灯は両側に千も万もあつて、その上から月が照つて居るといふ景色だ。実に奇麗で実に愉快だ。自分はこの時五つか六つの子供に返りたような心持がした。そして母に手を引かれて歩行あるいて居る処でありたかつた。そして両側の提灯に眼を奪われてあちこちと見廻して居るので度々石につまづいて転ぼうとするのを母に扶たすけられるという事でありたかつた。そして遂には何か買うてくれとねだりはじめて、とうとうねだりおおせてその辺の菓子屋へはいるという事でありたかつた。車ははや山へ上りかけた。左には瓦斯の

火で「鳥又」という字が出て居る。松源の奥には鼓つづみがぽんぽんと鳴って居る。何となくここを見捨てるのが残り惜いので車を返せといおうと思うたがそれも余り可笑おかしいからいいかねて居ると車は一足二足と山へ上って行く。何か買物でもしようかと思うて、それで車返せといおうとしたが、ちよつと買うような物がない。車は一足二足とまた進む。いつそ山下から返れといおうと思うたがそれとも思うて躊躇ちゆうちよして居ると車は山を上ってしもうた。もう提灯も何も見えぬ。もう仕方がないとあきらめると、つめたい風が森の中から出て電気燈の光にまじって来るので、首巻を鼻までかけて見たが直に落ちてしまう、寒さは寒し、急に背中がぞくぞくして気分が悪くなったからだだうつむいたばかりで首もあ

げぬ。早く内へ帰れば善いとばかり思いつめて居る。車はズーズーズーズー往た。暗い森の間をズーズーズーズー過ぎた。何だか書生が都々逸どどいつを歌つて居るのに出逢つたが、それもどこか知らぬ。ズーズーズーズー行く中に余りひどい音がしたので、今まで熱にうかされてうとうととして居たような心持が破られた。首をあげて見ると新坂の踏切で汽車に逢うたのであつた。それからまたズーズーズーズー行く中に急に明あかりがさしたから、見ると右側に一面にスリガラスを入れた家がある。内側には灯が明るくついて居るので鉢植の草が三鉢ほどスリガラスに影を写してあざやかに見える。一つは丸い小さい葉で、一つは万おもと年青のような広い長い葉で、今一つは蘭のような狭い長い葉が垂れて居る。ようよう床屋の前

まで来たのであった。また曲つた道をいくつも曲つて、とうとう内へ帰りついて蒲団の上へ這い上つた。燈炉とうろを燃やして室は暖めあたたてある。湯婆たんぼも今取りかえたばかりだ。始めて生き返つたような心持になると直に提灯の光景が目の前に現れて来る。横になつて暖まりながらいろいろ考えて居たが、この家の檐すしから庭の樹から一面に毬きゅう燈とうを釣つて、その下へ団子屋や鮓屋や汁粉屋をこしらえて、そしてこの二、三間しかない狭い庭で園遊会を開いたら面白いだろうという事を考えついた。

〔自筆稿『ホトトギス』第三卷第三号 明治32・12・10〕



# 青空文庫情報

底本：「飯待つ間」岩波文庫、岩波書店

1985（昭和60）年3月18日第1刷発行

2001（平成13）年11月7日第10刷発行

底本の親本：「子規全集 第十二巻」講談社

1975（昭和50）年10月刊

初出：「ホトトギス 第三巻第三号」

1899（明治32）年12月10日

※底本では、表題の下に「子規」と記載されています。

入力：ゆうき

校正・・noriko saito

2010年8月1日作成

2011年5月13日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 熊手と提灯

正岡子規

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>